

千葉大学医学部附属病院に脳卒中にてご入院され リハビリテーションを受けた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2024年11月1日

リハビリテーション科

リハビリテーション科では、脳卒中にて入院された患者様が、当院（急性期病院）からの退院先に影響を与える要因に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2020年1月1日～2024年9月30日の間に当院に脳卒中にてご入院され、リハビリテーションを受けた患者

1. 研究課題名

「急性期脳卒中患者の自宅退院と回復期病院転院に影響する病前生活情報ならびに初回機能評価項目の検討：後方視的観察研究」

2. 研究期間

2024年承認日～2026年12月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

脳卒中リハビリテーションは、発症後できるだけ早期から行うことが勧められています。リハビリテーションは、合併症を予防し、機能回復を促進すると同時に、短期的・長期的目標を設定し、自宅退院もしくは回復期病院転院などの転帰先決定のための情報提供が求められます。急性期病院からの退院先の方針によって、当院での入院期間内に退院に向けた社会資源導入の手続き、退院後の運動・生活指導、家屋調査や福祉用具の選定などの対応が異なるため、療法士は早期に転帰先を予測し、リハビリテーション計画を展開する必要があります。

本研究は、脳卒中リハビリテーションを開始した初期情報をもとに、自宅退院と回復期病院転院に影響する要因を検討することが目的です。方法は、2020年1月1日以降に脳卒中を発

症し、当院にて脳卒中治療ならびにリハビリを実施し、2024年9月30日までに当院を退院した患者様を対象として、2024年10月14日までの診療情報をカルテから抽出し、当院から自宅退院された方と回復期病院に転院された方でリハビリテーション開始時の実施状況や医学的情報等に統計学的な差があるかを検討します。

この研究により適切な脳卒中リハビリテーション計画の立案と運用に役立てることが可能となります。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、性別、身長、体重、病歴、既往歴、生活歴等の基本情報、X線・CT・MRI画像、血液データ、手術記録などの医学的情報、リハビリテーション評価等の臨床情報（運動機能、歩行機能、認知機能、バランス機能、など）

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：リハビリテーション科 診療教授 村田 淳

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院リハビリテーション科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究についての相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。

情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください

い。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

リハビリテーション科 診療教授 村田 淳

043（222）7171 内線6428

メール：reha-sakamonmon@chiba-u.jp（担当：坂本）